

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年 2月24日

【評価実施概要】

事業所番号	2690100058
法人名	アサヒケアサービス株式会社
事業所名	グループホーム安らぎ
所在地	〒603-8463 京都市北区大宮玄琢南町27 (電話) 075-495-1250

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成22年2月5日	評価確定日	平成22年5月19日

【情報提供票より】(平成 22 年 1 月 18 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	14 人
職員数	14 人	常勤 10 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	7.4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	33,000 円	
敷 金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (300,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		2,000 円	

(4) 利用者の概要(1 月 18 日現在)

利用者人数	14 名	男性	3 名	女性	11 名	
要介護1	1 名	要介護2	5 名			
要介護3	6 名	要介護4	2 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	85 歳	最低	67 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人葵会紫野診療所、西陣歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

京都市北区の閑静な住宅地に位置し、職員寮を改装した木造2階建のホームです。グループホームとしての歴史は古く、介護保険導入の年に開設され、まだ認識も薄い時期から地域の理解を得るために努力を続け、信頼関係を構築しながら今日に至っています。家族への連絡が密でホーム便りに日々の報告だけでなく、往診時の報告や健康面での記載を加えることで、家族の安心への支援もされています。設立当初からの理念を大切に、職員は利用者一人ひとりを理解しようと努め、一緒に過ごす中で利用者と職員が何でも共に楽しみ、寄り添う支援を心がけています。比較的元気な利用者が多く、ホーム内を自由に歩き来し、歌を歌ったり、作品を作ったりと、今までの趣味を継続しながら生活されています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題であった自己評価票の作成について、今回は日々のケアに関する項目を中心に職員個々に割り当て記入してもらい、管理者とリーダーで取りまとめて作成されています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義と目的を職員に説明し、全員で取り組んだことで日々のケアについて振り返る良い機会となり、項目の大切さも理解されています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	直近の運営推進会議では管理者が交代し、自治会の体制も変わったことから、資料を配布しホームの説明や認知症、運営推進会議の意義等についての説明で終了していますが、地域の方からの率直な意見や疑問点が伺え、良い機会となっています。運営推進会議は利用者、家族、自治会長、副会長、近隣住民、地域包括支援センター職員、民生委員、管理者、職員等が参加し今年度3回開催されています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来所時に意見や要望を聞いています。職員が聞いた内容については管理者に伝え、必要に応じてユニット間で話し合い対処しています。また意見箱を設置したり、苦情窓口を書面に掲載し家族が意見を言いやすい体制を整えています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、回覧板等で情報を得て近くの神社の夏祭りに参加しています。また近隣の農家からホームの食材である野菜を購入し、それが縁で運営推進会議にも出席頂いています。地域の人を招待して行う毎年恒例のホームの夏祭りは、今年は残念ながらインフルエンザの影響で行うことができませんでしたが、来年には実施する予定です。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に作成された「心生き活き、心楽しく、その人らしく」との理念を掲げ、それに伴い目的、目標、方針を定めている。昨年度からの課題である地域密着型サービスとしての理念を作るには至っていない。	○	地域密着型サービスとして大切にしたい事柄を職員間で話し合い、今ある理念に追記されてはいいかがでしょうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は誰からも良く見えるように、玄関や事務所に掲示されている。不定期ではあるが運営者が朝礼の際に訪れ、理念についての意義や目的を職員に伝え、確認したうえで実践に結び付けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、回覧板等で情報を得て近くの神社の夏祭りに参加している。また近隣の農家からホームの食材である野菜を購入し、それが縁で運営推進会議にも出席頂いている。地域の方を招待して行う毎年恒例のホームの夏祭りは今年は残念ながらインフルエンザの影響で行われなかったが、来年度は実施する予定である。日頃の挨拶や運営推進会議等で、徐々にではあるが地域からの理解が得られてきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の課題であった自己評価票の作成について、今回は日々のケアに関する項目を中心に職員個々に割り当て記入してもらい、管理者とリーダーで取りまとめて作成した。全員で取り組んだことで日々のケアについて振り返る良い機会となり、客観的で冷静にまとめられた内容となっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	直近の運営推進会議では管理者が交代し、自治会の体制も変わったことから、資料を配布しホームの説明や認知症、運営推進会議の意義等についての説明に終始しているが、地域の方からの率直な意見や疑問点が伺え、良い機会となっている。運営推進会議は利用者、家族、自治会長、副会長、近隣住民、地域包括支援センター職員、民生委員、管理者、職員等が参加し今年度3回開催されているが、定期的開催には至っていない。	○	今後の運営推進会議は行事や家族会と一緒にあったり、テーマを決めて参加者を募るなど工夫され、定期的開催されることが期待される。

グループホーム安らぎ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議に管理者が参加し、地域の情報を得ている。また区担当者を訪れ、運営推進会議の議題について相談したり、ケアマネージャーが介護保険課と連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個々の利用者の様子は担当職員が毎月写真入りのホーム便りを郵送し報告している。その際、預かり金の収支報告書と領収書を同封している。ホーム便りには往診時の医師からの伝達事項も記載されている。また来所時や必要時にも報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所時に意見や要望を聞いている。聞いた内容については管理者に伝え、必要に応じてユニット間で話し合い対処している。また意見箱を設置したり、苦情窓口を書面に掲載し家族が意見を言いやすい体制を整えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	様子を見て管理者が話を聞いたり、運営者との面談で職員の意見や要望を聞いている。また早出の勤務体制を増やし業務の軽減を図るなど、職員の離職を防ぐ取り組みを行っているが、離職が多いのが現状である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップの機会の必要性は感じているが、職員不足による人員配置もあり、研修に行けていないのが現状である。それに伴いホーム内の勉強会も確保されていない。	○	1人でも外部研修に参加し、ホームに持ち帰り伝達研修を行ったり、参加出来ない場合でもホーム内で職員が取り組みたい内容や事例研修等、身近な事について学ぶ機会を確保し、スキルアップに繋げることが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列のグループホーム間での職員の交換研修に参加した事がある。また今後は地域包括支援センターから情報を得て他事業所の見学会等への参加を予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には本人、家族にホームの見学をお願いし、ホームの雰囲気を味わってもらうようしている。入居後も帰宅願望が強い利用者には職員が対応を工夫したり、家族に電話してもらうなどの協力により、徐々に馴染んでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に職員は利用者との会話に耳を傾け、何でも一緒に楽しむよう心がけ、料理や家事、生活の知恵など多くの事を利用者から学んでいる。悲しみや怒りが見られるときでも、接し方を工夫し少しでも笑顔が見られるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望や思いは日常会話以外にも、一緒に生活する中で行動や表情から把握するよう努めている。センター方式を利用して情報の収集を図り、アセスメントに活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望を聞き、アセスメントをもとにカンファレンスを開催し、職員の思いやアイデアを出し合いケアプランを作成している。日々の介護記録に医師や看護師の意見を青色表記し、計画作成時に活用している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは3ヶ月毎にモニタリングを行い、評価し見直しされ、6ヶ月毎の更新に繋げている。状態に変化が生じた場合はその都度見直しを行っている。		

グループホーム安らぎ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が都合がつかない場合の通院介助や嗜好品の買物等に同行している。また男性の利用者が馴染みの理髪店に出かける際の外出支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が同じ状態で往診が受けられるよう、入居時に本人・家族に説明してホームの協力医を利用をお願いしているが、希望があれば今までの主治医の継続も可能である。定期的に内科医と歯科医の往診があり、看護師、歯科衛生士も定期的に訪れ日々の健康管理にあたっている。往診結果は毎月のホーム便りの中で家族にも報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについては入居の際にホームの方針を説明し、「ターミナルに関する申し合わせ書」に希望の有無を記入している。過去にも看取りを行った経験があり、家族の希望があれば協力医の判断を仰ぎ、訪問看護師とも連携を取りながらできる限りの支援を考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者や馴染みの関係にあっても常に敬意を持って接するよう心がけている。個々に合わせて家族に許可を得て名前では呼んでいる利用者もいる。ファイルは事務所に適切に保管され、チェックリストや介護記録も他の目に触れない場所での記入を心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れはあるが、2階の利用者が1階を好み1人で降りてきてリビングで過ごされたり、日課で行っている体操の時間も、新聞を取りに玄関へ行きベンチで過ごされている利用者など、個々のペースに合わせた生活を楽しんでいる。		

グループホーム安らぎ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞いたり、前の献立と重ならないよう担当者が献立を立て、食材を購入している。利用者と職員と一緒に下ごしらえや調理、米研ぎ、洗い物等を行っている。手伝って下さる男性利用者もいる。食卓では利用者と職員と一緒にいただく楽しい食事風景が見られる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回の支援をしており、午前10時から午後の3時頃に入浴して頂き、状態に応じて清拭や足浴、ドライシャンプー等の支援も行っている。拒否が見られる利用者には受け入れやすい言葉かけをしたり職員の対応の仕方を工夫し支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	男性利用者が食器洗いを日課とされていたり、玄関の花いじりや水やり、調理、新聞取りを役割とされている利用者もいる。また職員のピアノに合わせて歌を歌ったり、体操をしたり、共同でカレンダー作りをするなど、楽しみの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候の良い時期に散歩に出かける時もあるが、日常的な外出には至っていない。春と秋には遠足として観光地や植物園等に出かけている。また暖かい日は庭先のベンチで日光浴を楽しんでいる。	○	人員配置の面で大変ではあるが、季節を感じたり、ストレス発散の場として日常的に戸外へ行ける機会を確保されることが期待される。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の玄関の鍵はかけず、センサーで対応し、自由に玄関先に出ることができる。職員は鍵をかけることの弊害を理解している。門扉は施錠しているが、家族は門扉が閉まっていることで安心できている。またユニット間も自由に行き来することが出来ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の立ち会いのもと、避難訓練を実施している。また以前に救急救命講習を職員が受講している。運営推進会議でも議題とした事もあるが、地域への具体的な働きかけや協力の呼びかけには至っていない。	○	ホームでも昼夜を想定して独自の避難訓練を行ったり、地域の防災訓練に参加するなど地域貢献を果たし、運営推進会議等で近隣の協力を得られる働きかけが期待される。

グループホーム安らぎ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事や水分の摂取量は記録に残している。個々の状態に応じて食材を刻んだりトロミをつけて提供したり、食の細い方には小分けして少しずつ出すなど工夫している。野菜を多くとるよう心がけ、メニュー表を見てバランスの良い食材を用いるよう心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりのよい玄関先には季節の花が植えられ、ベンチを置いて日向ぼっこを楽しむ事が出来る。リビングには協同で作成されたカレンダーを貼り、季節感を取り入れ、畳コーナーのこたつで寛ぐ姿が見られる。入浴時は脱衣室にストーブを用意し、温度差が無いよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は作りつけのベッドと押入れが用意されている。利用者や家族の希望で畳を敷いて布団で休む方もいる。利用者は自宅から使い慣れた家具やテレビ、冷蔵庫、大切な仏壇、家族の写真等を持参され、配置も考え居心地よく過ごされている。		